EU06270R

施工・取扱説明書

2007.3

工事店さまへのお願い
この説明書は必ずお客様にお渡しください。

TOTO

EUDB304S

食器洗い乾燥機専用分岐金具

TOTO製のシングルレバー混合栓（台付タイプ）用

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工・取扱説明書の内容にそって正しく取り付けてください。取付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。
また、ご使用のお客様の方で本施工・取扱説明書の「日頃のお手入れと点検」をよくお読みいただき、大切に保管してください。

主な適用機種は TKF31型、TKG31型、TKG38型、TKJ31型、TKW31型（TKJ31CF3R型・TKJ31UF3R型除く）
TKF33型、TKG33型、TKG39JX、TKJ33型（TKJ33C3R型・TKJ33U3R型除く）

詳しくはTOTOホームページ　www.toto.co.jp　をご参照ください。

施工に関する安全上の注意（安全のために必ずお守りください）

取付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく取り付けてください。

●この説明書では商品を安全に正しく取り付けていただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。

表　示	意　味
⚠注意	この表示の欄の内容を無視して誤った取扱いをすると、傷害又は物的損害が発生する可能性があることを示しています。

●お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

⃠	してはいけない「禁止」内容です。
⃠	分解しないでください。
❗	必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 注　意

禁止

- **食器洗い乾燥機以外は使用しない**
  破損して、水漏れにより家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。
- **凍結のおそれのある所への設置は避ける**
  水漏れのおそれがあります。
- **施工前後に水道の元栓又は流し台下の止水栓を開放状態のままで分岐金具、水栓金具などの分解、取り外しはしない**
  障害、物損、故障、水漏れなどのおそれがあります。
- **水栓金具のカートリッジは落としたり、分解しない**
  取り付けができなくなったり、水漏れのおそれがあります。

⚠ 注　意

分解禁止

- **分岐金具は絶対に分解・改造しない**
  水漏れのおそれがあります。

必ず実行

- **水道の元栓又は流し台下の止水栓の開放は必ず分岐金具と食器洗い乾燥機を給湯ホースで接続したあと行う**
  高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。
- **分岐金具を取り付ける場合、必ず施工説明書で指示されている工具を使って取り付ける**
  また、分岐金具の袋ナットは最後まで確実に手締めを行う
  指示されている工具以外で取り付けを行うと、傷を付けたり施工不良により水漏れのおそれがあります。
  袋ナットの締め付けが不十分だと水栓本体の止水ができなくなります。
  （水栓のスパウトから水が出っ放しになる原因になります。）
- **分岐金具取り付け完了後、食器洗い乾燥機の試運転を行い、水栓本体と分岐金具との間から水漏れがないかよく確認する**
  家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。
  高温の湯が噴き出しやけどをするおそれがあります。
- **カートリッジ押さえの取り外し、取り付けを行うときは水栓本体が回らないようにする**
  水栓内部の配管のねじれによる破損、水漏れのおそれがあります。

給水接続への切替え方法

※給湯接続と比べて洗浄時間が長く、ランニングコストが高くなります。

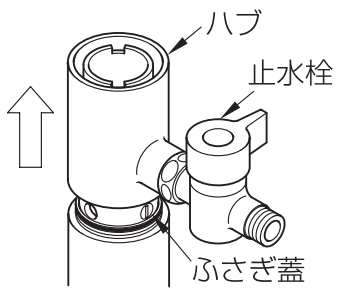
禁止

- **部品の組替え時に分岐金具やパッキンなどを傷つけない**
  水漏れのおそれがあります。

必ず実行

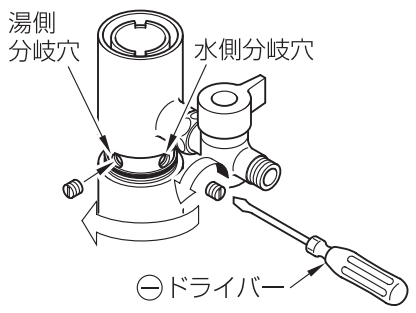
- **施工前に給湯機の取扱説明書を参照し、給湯温度の設定が可能であることを確認する。**
  高温給湯タイプ（70℃以上でしか温度設定ができない）の電気温水器、ガス・石油給湯機を使用する場合には必ず給水接続に切り替える
  食器洗い乾燥機の故障の原因となります。
- **十分注意して取付け、部品の組替え作業を行う**
  手などにけがをするおそれがあります。

1 分岐金具のハブを引き上げる。



2
・水側分岐口の塞ぎ蓋を㊀ドライバーでゆるめて取り外す。

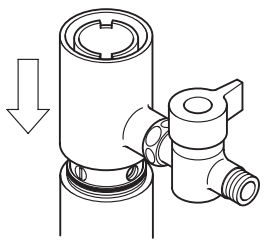
・取り外した塞ぎ蓋を、湯側分岐穴に取付ける。



3 分岐金具のハブを押し下げる。

必ず実行

- **ハブを押し下げる際には、無理な力を加えず、慎重に動かす**
  本体のOリングに傷がつくと、水漏れにより家財などをぬらすおそれがあります。



日頃のお手入れと点検

必ず実行

- **定期的に配管のまわり（ホース接続など）を点検し、水漏れがないか確認する**
  部品の劣化摩耗などによる水漏れが発見できず、家財などをぬらすおそれがあります。

必ず実行

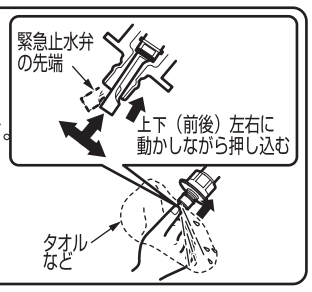
- **定期的に分岐金具と水栓金具本体の組立部を点検し、取付けナットの緩みや分岐金具にガタツキがないか確認する**
  水漏れや分岐金具が外れる原因になります。

使用中にホースが外れた場合の注意

●**開閉ハンドルを閉めて**、緊急止水弁の先端をタオルなどで押さえてつまみ、上下(前後)左右に動かしながら押し込み、湯を抜いてから給湯ホースを取り付けます。

熱湯が出る場合がありますので注意してください。

●水圧が高くレバーが押せない場合は、継手部をゆるめてから湯を抜きます。
その後、必ず継手部を取り付けてください。



商品のお問合せは・・・
TOTO（株）お客様相談室へ　TEL 0120−03−1010　FAX 0120−09−1010

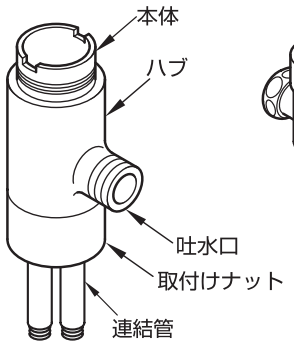
修理のご用命は・・・
TOTOメンテナンス(株)へ　TEL 0120−1010−05　FAX 0120−1010−02

裏面へつづく

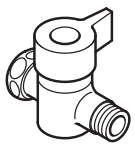
施　工　手　順

部品の確認　次の部品があることを確認してください。

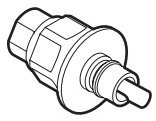
1．分岐金具



2．止水栓



3.カプラーユニット（緊急止水弁付）



4．パッキン類

5．施工説明書（本書）

1 水道の元栓又は流し台下の止水栓を閉める。

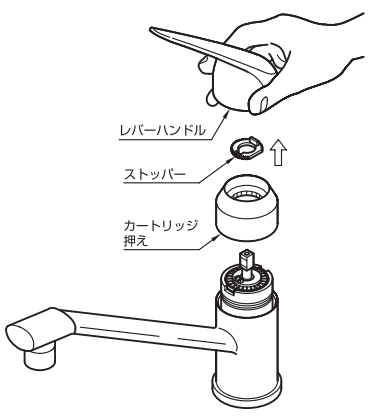
注 水栓から水が出ないことを確認してください。

2 レバーハンドル・カートリッジ押えを取り外す。

①レバーハンドルを手で上に引き抜くようにして取り外す。

②カートリッジ押え内部にあるストッパーをピンセット等で上に引き抜き、カートリッジ押えを手でゆるめて取り外す。

注 取り外したレバーハンドル・ストッパー・カートリッジ押えは再度組付けに使用します。

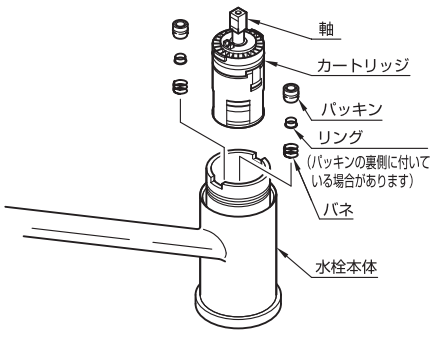


3 カートリッジとパッキンを取り外す。

カートリッジの軸を手で持ち、上に引き抜く。水栓本体内部に残っているパッキン、リング、バネをピンセット等で取り出す。

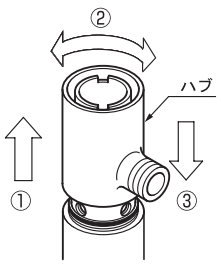
注 取り外したカートリッジは再度組付け時に使用します。

取り外したパッキン、リング、バネは使用しません。お客様に保管していただいてください。



4 分岐口の向きを食洗機設置方向に合わせる。

①分岐金具のハブを引き上げる。
②ハブを手で回して分岐口の向きを食洗機設置方向にあわせる。
③分岐金具のハブを押し下げる。



必ず実行 ハブの向きを押し下げる際には、無理な力を加えず、慎重に動かす
本体のOリングに傷がつくと、水漏れにより、家財などをぬらすおそれがあります。

必ず実行 ハブの向きを変える時は、手袋をして作業する。
本体のエッジ部などで、手にけがをするおそれがあります。

5 カートリッジを分岐金具に組み込む。

①分岐金具内部の手前側2ケ所の穴にピンセット等でバネ・パッキンを挿入し、指で確実に押し込む。

②カートリッジ凸部（大）を手前にして、分岐金具凹部に合うように組み込む。

注 パッキン部を傷つけたり、ごみかみがないように注意してください。
パッキン・バネの向きに注意してください。

6 分岐金具を水栓本体に取り付ける。

①分岐金具の連結管と水栓本体のパッキンが入っていた穴（2ケ所）が合うように分岐金具を水栓本体に差し込む（図１）。

②分岐金具を水栓本体に仮組みし、分岐金具本体を軽く左右にゆすりながら取付けナットを締めこんで、分岐金具本体凸部を水栓本体凹部に確実にはめ込む（図2）。

③取付けナットを手で確実に締め付ける。

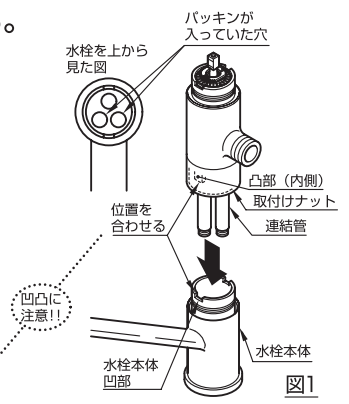
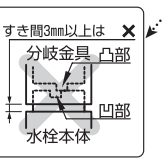


図1

注 右図のように凹凸が合わないと、取付けナット締め付け後に、分岐金具と水栓とのすき間が3mm以上開きますので、やり直してください。



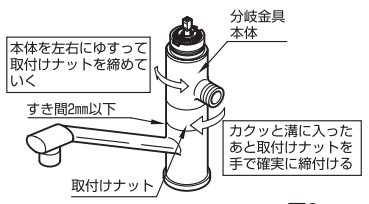


図2

注 分岐金具を水栓本体に差し込む際には、連結管が分岐金具に確実に差し込まれているか確認してください。

必ず実行 取付けナット締め付けの際、工具は使用しない
水栓本体が破損するおそれがあります。

必ず実行 取付け後、分岐金具と水栓本体とのすき間が2mm以下でガタツキがないことを確認する
水漏れ・止水不良や分岐金具が外れる原因となります。

7 止水栓・カートリッジ押え・レバーハンドルを取り付ける。

①止水栓の袋ナットに大パッキンを入れ、止水栓を手で押さえて、分岐金具の吐水口に取り付ける。

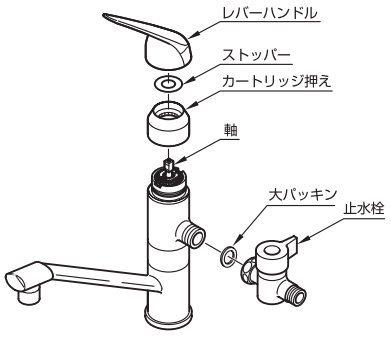
注 袋ナット適性締め付けトルク ：10Nm

②カートリッジ押えを手で確実に締め付け、ストッパーを取り付ける。
③レバーハンドルをカートリッジの軸にカチッと音がするまで押し込む。

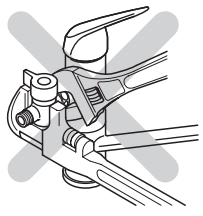
注 止水栓取り付けの際には、大パッキンの入れ忘れに注意してください。

カートリッジ押えを分岐金具に取り付ける際には、工具を使わず手締めで取り付けてください。

ストッパーとカートリッジ押え内部の歯がかみ合わない時にはカートリッジ押えを少しまわしてかみ合う位置に調整してください。



注 袋ナットを締め付けるときは、止水栓を工具で押さえないでください。



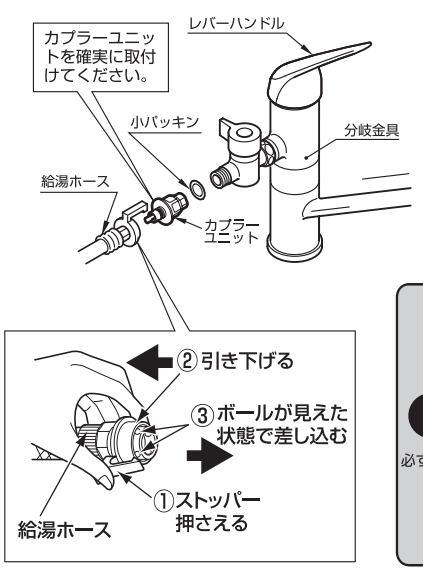
8 給湯ホースを接続する。

給湯ホースの接続仕様に合わせて、給湯ホースを接続する。

注 小パッキンの入れ忘れにご注意ください。

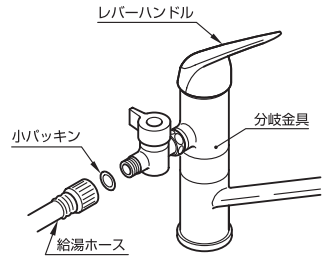
カプラー接続の場合

カプラーユニット（付属）のナットの内側に小パッキンを入れて、止水栓の吐水口に取付け、給湯ホースを接続する。



G3/8ねじ接続の場合

給湯ホース先端の袋ナットの内側に小パッキンを入れて、給湯ホースを接続する。
（付属のカプラーユニットは使用しません。）



必ず実行 元栓や止水栓の開放は、必ず給湯ホースを接続した後に行う
高温の湯が出てやけどするおそれがあります。

必ず実行 取付作業完了後、水栓及び分岐金具各部からの水漏れが無いか特に注意して確認する
家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

再生紙を使用しています。